

# 感動新聞 平成24年1月号 発行者 細川栄一

皆様、明けましておめでとうございます！ 本年もよろしくお願ひ申し上げます。

ビジネス経営の最前線で頑張っておられる方の役に立つ情報となればと思います。喜んで頂ければ幸いです。

## 米TIME誌が評した「世界一クールな技術」

参考著書「コトラーのマーケティング3.0で日本企業は復活する」中畑信哉 つた書房

「最後の市場」と呼ばれるアフリカに、日本企業の進出は遅れています。地理的状況や、企業の中にアフリカ地域に詳しい人が少ないこと、そして植民地と宗主国としての歴史を持つ欧州各国が進出の中心となっています。そうした中、住友化学工業株式会社はマラリアを媒介する蚊から身を守るために防虫剤を練り込んだ蚊帳「オリセットネット」で地域の貢献と知名度の拡大を行っています。

WHOの発表によると、世界で毎年5億人もの人がマラリアを発症しており、100万人以上が命を落としているとされています。

そして、その約9割がアフリカのサハラ砂漠以南の地域で発生しています。

オリセットネットは、洗濯しながら5年間の使用に耐えることができ、しかも防虫剤が徐々に放出されるしくみになっています。

現在、この新技術がマラリア対策向けに需要が一気に拡大しており、少し古い話ですが2004年には米タイムズ誌にて「世界で一番クールな技術」に選ばれました。

このオリセットネットは現地合弁企業で製造しているタンザニアでの生産量は年間1000万張に達しています。

開発した住友化学は、蚊帳事業は技術を活かした社会貢献が目的であって利益追求よりもその基軸をつくることを優先していたのですが、主な購入先となっている国際機関からは適正な利益は確保するようにと要請されています。

というのも、事業継続が出来なければ蚊帳の供給も止まってしまうという点で、世界の総意と理解、そしてその価値の社会的な評価を得たからでしょう。

現在のところ同社は、現地利益は学校建設などの形で再度地域に還元するとしています。

もちろんこの蚊帳事業は現地生産ですから、そこから生まれる労働需要がもうひとつの社会貢献となっています。

アフリカは現金収入が得られる職業が極めて限られた地域です。

広大な自然はありますし、豊富な天然資源はあります。

しかし、それらは大資本家の支配下にあり、人々の雇用創造には産業の育成が不可欠であることは、先進諸国の発展を見ればわかります。

しかし現金とは循環があってこそ役立つものですので、地域の産業発展の中心となり、そこで働く人々が現金を使う場所も含め、自然に発展することが必要不可欠となります。

住友化学のタンザニア工場では、直接雇用だけで3200人ということですので、原材料や加工済み製品の輸出入などの物流を中心にそれらの周辺ビジネスも考えれば、実に多くの産業が発展し、これにより1万人規模での雇用が促進されることとなります。

現地では1人の従業員の現金収入で一家を養っていることもめずらしくないので、工場1つで数万人規模の生活をささえていることとなります。

この社会循環の構築は理想的であり、現地でのニーズ発展とともにとても有意義なこととして受け入れられることでしょう。

また、そこで働く人々が自分たちの工場に誇りを持ち、そして感謝すれば、顧客としてのマインドも育成されることにつながるのです。

2008年には年間2000万張を生産する新たな蚊帳工場の建設を開始しました。

ナイジェリアはサハラ以南の地域の約2割の人口を抱えており、その数は1億4000万人ですから、日本の人口とほぼ等しい国に対する影響力を持つこととなります。

もちろん、オリセットネット自体のニーズへの期待もありますが、今回生まれる5000人以上もの直接雇用が、企業の進出におけるキーポイントとなっています。

**マーケティング3.0は、競争により疲弊したビジネス環境からそれが世界中で支持されるべきこと、モノ、そして場所へと変化していきます。**